

今週のみことば

「平和を実現するために」

(ルカの福音書 20 章 9 節～19 節)

「ぶどう園の主人は言った。『どうしたものか。よし、愛する息子を送ろう。彼らも、この子はたぶん敬ってくれるだろう』」(20:13)

仲森文穩

今日のメッセージ要旨

○今日のたとえ話は、「ある人がぶどう園を造り、それを農夫たちに貸して、長い旅に出た」と始まります。主人が収穫を受け取るために僕を送る度に、農夫たちは彼をふくろ叩きにして追い返します。そこで主人は愛する息子を送りますが、農夫たちは欲望を露わにして「あれはあと取りだ。あれを殺そう」と言って、息子を殺してしまいます。これには主人も堪忍袋の緒が切れて、農夫たちを滅ぼし、他の人々にぶどう園を与えてしまった、というたとえ話です。律法学者、祭司長たちは怒りました。農夫とは自分たちのこと、三人の僕とは預言者たち、そして最後の愛する息子とはイエス様を指していることに気づいたからです。

こんなたとえ話をされるとは、イエス様は恐れを知らない方です。ファリサイ派や律法学者、祭司長たちは神様の救いを独占し、民衆を劣った存在として見下していました。でも誰も異議を唱えたり、抵抗を試みない中で、イエス様は違いました。堂々と異議を唱えられたのです。マタイ 10:34 では「わたしは、平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです」と仰っていますが、この剣は御言葉の剣であり、救いの在り方をめぐって、あるいは病人や障害者がいないがしろにされる社会の在り方をめぐって、イエス様がふるわれた改革のメスのようなものだと思えます。

○イエス様が求めておられるのは、万民の救いです。イエス様に従う私たちには伝道の務めがあります。しかし現実はとても厳しい。伝道に力を注いでも、実りはわずかです。でも、私たちは落胆する訳にはいきません。たとえ話のぶどう園の主人は、何度も失望を味わいながら、僕たちを送り続けました。そして私たちもいろんなことに忍耐しています。戦争など早く終わって欲しいのに、中々そうはならない。仕事も生活も中々うまくいかない。人間関係も何やかやと悩みごとが追いかけてくる。でも、くじけるわけにはいきません。イエス様も無理解な人々に道を阻まれ、思い通りにならない中で、ご自分の最善を尽くしていかれたのですから。

イエス様の強さは、いつも人を祝福する心を持っておられたということです。平和を作るために何も持たない私ですが、いつも家族、友人、知人、教会の兄弟姉妹を「キリストの平和があなたにありますように」と祝福する心でいることを心がけていたと思います。それもイエス様の御心の一つだと思えるのです。

世界の平和を守るために、指導者には平和の意識を強く持って欲しいと思います。そして、聖書の預言者たちが、指導者が道を踏み外さないよう見張りの役目を務めていたように、私たちも政治に関心をもち、見守っていきたいですね。

また、私たちには、若い人たちが自分の信仰において何が正しいことなのか、自分で判断し、信仰の良心に基づいて行動できるように育てていく責任もありますね。そういう一つ一つのことすべて平和を守ることに繋がっていると信じるものです。主の助けを祈りたく思います。